

中心研究者・研究課題の公募及び選定の方針（案）のポイント

平成 21 年 6 月 29 日

I. 体制

- 公募の上、支援会議及びワーキングチームで審査を実施し、中心研究者及び研究課題案を取りまとめ、総合科学技術会議で決定。（具体的手順は次ページのとおり）

II. 公募

1 中心研究者

- 原則として、日本国籍を有することを要件とする。
- 海外に居住する場合、採択後、速やかに帰国することを原則とし、速やかな帰国が困難な場合、帰国までの間、研究開発に支障がない体制が構築されることを要件とする。

2 実施中の他の研究開発

- 原則として、本プログラムに一本化し、専念できる体制を整える。

3 研究課題

- 新たな知を創造する基礎研究から出口を見据えた研究開発まで、さまざまな分野及びステージを対象とした先端的研究課題のうち、3～5年間で世界をリードし、世界のトップを目指す研究課題を対象とする。

4 研究開発期間

- 3年以上5年以内とする。

5 対象経費

- 自由度の高い研究資金を助成する。なお、施設整備費及び共通設備の整備費は助成対象としない。

6 採択件数及び金額規模の目安

採択件数は30課題程度を目安とし、金額規模は総額30億円～150億円程度を目安とする。

ただし、採択件数、金額規模共にあくまでも目安であり、課題の内容によって増減があり得る。

7 応募書類

- 「事実関係等に関する定型フォーマット」及び「研究内容をアピールする様式自由の資料」とする。(書面での提出を原則とするが、それが困難な特段の事情があり、事務局が認めた場合には、応募書類に記載すべき内容の説明を録画した媒体によることも可)

8 公募期間

- 公募期間は4週間とし、定型フォーマットの締切りは3週間後、様式自由の資料の締切りは4週間後とする。

9 研究開発成果の活用に関する留意事項

- 知的財産権等成果の帰属については、中心研究者、研究支援担当機関等関係者間の協議により定めることを基本とする。

Ⅲ. 選定

1 選定手順

(1) 関係団体等からの意見聴取

：産学官の関係団体等から中心研究者等に関する意見を聴取。

(2) ワーキングチームにおける審査

：応募案件を審査し、計60件程度を目安とした「中心研究者候補及び研究課題候補」(S、A、Bにグループ分け)を絞り込み。

(3) 支援会議における審議、検討

：30件程度を目安に「中心研究者案及び研究課題案」を取りまとめ。ただし、件数については、実際の候補課題の水準を踏まえて柔軟に対応。

(4) 総合科学技術会議による決定

：中心研究者及び研究課題を決定。

2 検討の視点 (別添参照)

「最先端研究開発支援プログラムにおける中心研究者・研究課題の公募
及び選定方針」(抄)

Ⅲ. 選定について

2 検討の視点

支援会議及びワーキングチームにおいては、主として以下のような視点から検討を行うこととする。

(1) 中心研究者の実績等

○ 科学技術分野における我が国の代表的研究者若しくは本プログラム実施により我が国の代表的研究者となることが期待される研究者であるか。【基礎科学研究・出口を見据えた研究開発共通】

- ・ 論文の発表状況はどうか。
- ・ 論文の被引用数はどの程度か。
- ・ 国内外の有力な賞や顕彰を受けているか。
- ・ 取得知的財産権や、国際標準化につながっている研究開発成果を有しているか。
- ・ 大型プロジェクトの運営に係る経験はどの程度か。

※これらの基準については、研究開発分野ごとの特性を踏まえつつ、適切に適用するものとする。

(2) 研究開発の適切性

① 研究開発の意義

- スポンサーである国民に対して、分かりやすく十分な意義を説明し得るか。【基礎科学研究・出口を見据えた研究開発共通】
- 具体的には、研究成果が当該分野における新しい展望を拓き、幅広い分野の研究を進展させる等、科学の発展に寄与し得る内容となっているか。
【基礎科学研究】
- 具体的には、研究成果の社会における活用について、具体的な将来ビジョンの提示がなされているか。【出口を見据えた研究開発】

② 3～5年後のプログラム終了時点で実現する具体的成果

- プログラム終了時点において、当該研究開発が属する分野において世界でトップの成果を挙げることができるか。【基礎科学研究・出口を見据えた研究開発共通】
- 研究成果が世界における我が国のプレゼンスを高め、国民に自信を与えることができるなど、国民に夢と希望を与える取組であるか。【基礎科学研究・出口を見据えた研究開発共通】
- 我が国産業の国際競争力の強化、環境・資源・エネルギー問題の克服、健康な社会の構築、日本と世界の安全保障等我が国が直面する重要課題の解決に向け、特に大きなインパクトを与え得る研究課題であるか。【出口を見据えた研究開発】

③ 研究開発及び成果利用のフィージビリティ

【研究開発段階】

- 研究開発計画や推進体制は、現実的かつ、高い成果が期待できるものとなっているか。【基礎科学研究・出口を見据えた研究開発共通】
- 中心研究者は、本プログラムの研究開発に専念する等、支障なく従事できるか。【基礎科学研究・出口を見据えた研究開発共通】

【研究開発終了後】

- 研究開発終了後、研究成果を社会に還元する方策や体制が明確であるか。
【出口を見据えた研究開発】
- 研究開発終了後、その成果をどのように展開（スケールアップ、実用化等）するのか明確であるか。【基礎科学研究・出口を見据えた研究開発共通】

④ その他（研究開発の波及効果等）

- 想定する研究チームにおける若手研究者の育成がどの程度見込まれるか。
【基礎科学研究・出口を見据えた研究開発共通】
- 研究成果の実用化等の波及効果について、どの程度のものが見込まれるか。
【基礎科学研究・出口を見据えた研究開発共通】